

41号で新しくつがい形成をした個体（雌）の変わった行動を書きましたが、現在は通常の行動とあまり変わりなくなりました。鳴き交わしはやや少ないと感じます。幼鳥への給餌に関しては、すでに幼鳥は自力でハンティングをしているので、給餌はありません。ねぐらも同じところをとっています。これらのことから一時しのぎのつがい形成ではなく若さゆえの行動だったのかなあと考えています。

10月の末に高病原性鳥インフルエンザがとうとうシマフクロウに出てしまいました。フクロウ類では過去にエゾフクロウで確認されていたのですが、残念です。鳥インフルエンザはカラスやオジロワシ、タンチョウ、そして水鳥類が多く感染しています。これらの鳥類はほぼ同じ場所に住んでいます。シマフクロウが感染したのは、おそらく水鳥からだと考えています。シマフクロウは全期を通じて多くは捕食していません。猛禽類は弱ったり、動きの変わった個体を積極的に捕食します。もしそのカモが感染していたら移ってしまいます。このことは海外からも猛禽類（フクロウ類）の感染はカモ類からが多いと言われています。家族単位で生活するシマフクロウは親や兄弟に移らないか心配で



す。また人が運んで感染することもあります。これは絶対に避けなければなりません。我々は標識調査時に行っているように調査地に入るときは必ず靴底を消毒し、出るときも同じく靴底を消毒しています。もしくは靴を履き替えます。でもこれくらいしか対策がありません。生息

地に入らなければいいのですが、入らなければ何も分かりません。このまま収まってくれることを祈っています。

- 1 初冬のつがい（左 雄）
- 2 身震い
- 3 シマフクロウ用の巣箱で抱卵中のオシドリ（感染源）撮影：田村



事務局便り

● 本号の記事でもご報告のとおり、会の活動の財政的根幹を支えるご寄付に関し、今年もクラウドファンディング、コンサドレー連携による募金活動、関連商品販売によるご寄付等によるご支援を賜っております。皆様のお力添えに対し本欄にて改めて心より感謝申し上げます。

● 賛助会員ご入会・ご寄付を募集しています

当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆様の賛助会員ご入会とご寄付を募集しています。当会のホームページからのご入会手続・ご寄付申込手続ができますのでよろしくお願いいたします。

【認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 事務局】（担当：米谷・佐々木）

〒060-8640 札幌市中央区大通西 3 丁目 11 番地 北洋ビル 6 階（株）北海道二十一世紀総合研究所 内 TEL 011-231-8681 FAX 011-231-3143

URL：https://hokkaido-shimafukurou.org/ E-mail：info@hokkaido-shimafukurou.org

北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌



第42号

写真：山本純郎



シマフクロウの森の再生を願って～日高と十勝、二つの地で始まる挑戦

公益財団法人日本野鳥の会 自然保護室 苫小牧グループ チーフ 松本潤慶

日本野鳥の会では2004年より、シマフクロウが生息する民有地を買い取り「野鳥保護区」として設置する活動を継続してきました。日高・十勝方面では2007年から保全を開始し、現在では、これら2カ所の保護区に生息するつがいの利用範囲のうち、民有地の多くを占める面積を確保するに至っています。こうした進展を受け、当会では「買い取って守る」段階から一歩進み、シマフクロウの生息に真に適した森林環境を維持・改善するための具体的な施策プランを策定いたしました。2026年度より、いよいよこの新たな計画が始動します。

現在、日高第1（147ha）および十勝第1（365ha）の両保護区内には、高密度の人工針葉樹林が多く含まれています。日高地区では従来の造林計画により針広混交林への転換が進まず、十勝地区でも未施業人工林の倒木や移入種の混在が課題となってきました。これらを放置することは生物多様性の劣化を招く恐れがあるため、専門の林業従事者と連携した適正な管理が不可欠です。

しかし、シマフクロウのための森づくりは一般的な林業とは大きく異なります。独自のプランニングや繁殖に配慮した特殊な工程には、通常の施業以上の費用を要する場合があります。こうした先駆的な取り組みを試行し、スタートできているのは、ひとえに「北海道シマフクロウの会」の皆さまから寄せられた温かいご

寄付の賜物です。

本計画では森林を三つに区分して管理を行います。良好な天然林を維持する「保護林分」に加え、河川に近い人工林は「誘導林分」とし、適正な間伐で林内に光を届けます。これにより、残留する広葉樹や実生からの自生を促し、数十年かけて針広混交林へと導く狙いです。また、河川から離れたエリア等は「施業継続林分」とし、伐採時に母樹を残す「保持林業」を取り入れつつ、得られた収益を維持管理費用に充当してまいります。

実際の作業にあたっては、繁殖への影

響を最小限に抑えることを最優先します。大きな音の出る重機作業は、雛の巣立ち後の7月から次期繁殖前の12月までに完了させ、6月の植栽も重機は使用せず手植えを徹底するなど、彼らの生活サイクルを乱さないスケジュールを厳守します。

この取り組みは、自然再興（ネイチャーポジティブ）やカーボンニュートラルへの貢献も目的としています。皆様に支えられたこの広大な森が、次世代を育む豊かな聖域となるよう、着実に歩みを進めてまいります。



- 1 シマフクロウの森の施業イメージ
まずは間伐を入れつつ間に広葉樹を育てる
- 2 目指す森の姿、針広混交林
- 3 未施業で混んだアカエゾマツの人工林

事務局まとめ

クラウドファンディング目標達成
今年もご支援に感謝

第7回クラウドファンディングについてのご報告・御礼

生息現場でシマフクロウの保護活動に携わっておられる方々の、給餌や巣箱設置などの活動を財政面から支援することを目的として、令和7年9月5日にスタートした第7回のクラウドファンディング方式によるご寄付の募集につきまして、

10月31日までの約2カ月間で、目標額の700,000円を上回る、823,000円のご支援を賜りました。

改めまして、皆様方からの多大なるシマフクロウ保護へのお力添えに深く感謝申し上げます。

弊会では今後も引続きシマフクロウの生息数の増加、安定を目指し、保護活動に当たられる方々へのご支援に取り組んで

参りますので、皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

第7回クラウドファンディング実績

目標額 700,000円
ご支援額 823,000円
(ご支援延べ38口 達成率117%)

●ご寄付額3万円以上の方のお名前は、弊会ホームページ上に掲載させていただいております

事務局レポート

北海道コンサドーレ札幌 連携イベント 第6回

令和7年11月8日
大分トリニータ戦
ブース出展

今回も多くの
ご支援に感謝！



北海道コンサドーレ札幌との連携イベント第6弾として、去る11月8日（土）開催の大分トリニータ戦にて、大和ハウスプレミストドーム内に特設ブースを設置させていただき、シマフクロウ保護活動の情報発信とともに活動支援のための募金をお願いしました。今回も約400名と大勢のファン・サポーターにお立ち寄りいただき、66,255円の募金（寄付）が集まりました。

今回の活動にも、これまで同様北海学園大学 早矢仕教授、日本野鳥の会、環境省北海道地方環境事務所・釧路自然環境事務所の皆様にご協力いただくとともに、当会村田理事長が講義をさせていただいたご縁で、札幌大学の学生4名の方にも参加いただきました。

コンサドーレのマスコット「ドーレくん」や「コンサドルズ」もブースでの呼びかけに参加してくださり、シマフクロウの着ぐるみ「ブラッキー」と一緒に写真を撮る家族連れも多くいらっしゃいました。

また、今回も展示していた当会で所蔵するはく製のシマフクロウには皆様の関心が寄せられ、シマフクロウに関する当会からの説明にも、熱心に耳を傾けていただきました。

今回もたくさんの温かいご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今後ともシマフクロウ保護へのご理解、お力添えを心よりお願い申し上げます。

平成31年以来継続して当会にご支援をいただいている食品卸道内大手の国分北海道株式会社様から、今年も同社が販売する道産酒「島泉」シリーズの売上金の一部をご寄付いただくこととなり、12月25日（木）に8回目となる贈呈式が行われました。

当日、事務局を訪れた同社諏訪社長様より寄付金目録を頂戴し、当会村田理事長から、長年に亘る継続したお力添えに感謝するとともに、このご寄付をシマフ

クロウ保護活動の支援のため大切に使用させていただく旨、お礼の言葉をお伝えしました。

このご支援については、「島泉」シリーズのブランデー等の原酒が残り少なくなっていることから、今後は方法を改めて検討しながら、引続きお取組みいただけることになっています。

令和7年

島泉ブランド販売本数 1,143本
今期寄付金額 203,000円

事務局まとめ

国分北海道株式会社様より
8年連続でご寄付をいただきました

